

毎週土曜日 午前 9 時 15 分 ~ 9 時 25 分放送

2010 年 12 月 28 日

午前 9:35 ~ 9:45

CRT 両毛支局にて収録

「定着」とは何かを考える

- 「学習の 3 段階理論」で学力を身につけよう(2) -

開倫塾

塾長 林 明夫

\* 1 月 1 日の放送内容に引き続き、CRT のスタジオで収録した内容を思い出しながら、塾生の皆様の御参考になればと大幅に付け加え、お読みになりやすいように QandA の形で書き直してみました。

## 1 . はじめに

- (1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今日も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
- (2)この「開倫塾の時間」では、社会人も含めて「効果の上がる勉強の仕方」を放送をお聴きの皆様と一緒に考えております。今回は、前回(1 月 1 日)に引き続き学習を「理解」「定着」「応用」の 3 つの段階に分け、その段階ごとに何をどのようにしたらよいのかを考える「学習の 3 段階理論」に基づいて、どうしたら「効果の上がる勉強」ができるかを考えます。
- (3)前回は学習の第 1 段階の「理解」について取り上げましたので、今回は第 2 段階の「定着」について考えます。

## 2 . 「定着」とは何かを考える

Q : 「学習の 3 段階理論」の第 2 段階である「定着」とは何ですか。

A : (林明夫。以下略)「定着」とは、「そうか、これはこういうことだったのか」と一度「うんなるほど」と「よくわかった」「腑(ふ)に落ちた」ことを「スミからスミまで正確に身につける」ことを言います。

Q : なぜ「定着」が大事なのですか。ものごとは「うんなるほど」と「理解」すれば十分なのではないですか。

A : (1)素晴らしい質問ですね。この放送をお聴きの皆様の中にも、また、この文章を今お読みの皆様の中にも、「うんなるほど」と「よくわかった」つまり「理解」したことを「スミからスミまで正確に身につける」という意味での「定着」など必要ないとお考えの方もたくさんいらっしゃるのではないかと推測されます。

(2)なぜ一度「うんなるほど」と「理解」したことを「スミからスミまで正確に身につける」という意味での「定着」が大切なのか。それは、いくら熱心に、一所懸命に、真剣に学校や開倫塾の先生のお話を授業中に聴いて「うんなるほど」と「理解」しても、また、自学自習つまり

自分で教科書を熱心に勉強して「そうか、これはこのようなことなのか」と「うんなるほど」と「理解」しても、「理解」した内容の全部とは言いませんが、その多くを忘れてしまうことが多いからです。先生が授業中にお話したことを一言残らずノートにメモし続けても、また、よくわからないことばや内容を辞書や参考書などを用いて調べその内容をノートに書き写しても、全部とは言いませんがその多くを忘れてしまうことが多いからです。そうでない人もいるかもしれませんが、「理解」したことすべてを忘れることのない人は余りいないと私には思えます。

(3)頭がよい人は忘れることはなく、頭が余りよくない人は忘れやすいという考えに、私は賛成しません。そもそも頭がよい、余りよくないという考えにも私は賛成しません。テストなどでよい成績を取る人は、よく勉強した人です。よい成績が取れない人は、勉強が足りなかっただけです。勉強した人は成績がよく、勉強が足りない人はよい成績を取ることが余りない。よい成績を取りたかったら勉強をすればよいだけです。

(4)学校のテストや入学試験、様々な試験でよい点数が取れる人、「あの人はよく勉強しているね、学力が高いね」と社会に出てからも言われる人は、一度「うんなるほど」と「理解」したことを「スミからスミまで正確に身につけている」「定着」させている人であると言えます。

(5)なぜ「うんなるほど」と「理解」したことを「定着」させた方がよいかと言えば、学力を身につけて、学校のテストや入学試験をはじめ様々な試験でよい点数を取るため、よい点数を取って自分の人生の選択肢を広げるためです。(よい点数が取れば希望する学校に入学することもできるし、その学校で一定の成績・点数が取ればその学校を卒業することもできます。よい点数を取れば資格試験や就職試験に合格できますので、自分の就きたい仕事に就いたり、自分の希望する職場で働くこともできます。)一度「うんなるほど」と「理解」したことを「スミからスミまで正確に身につける」「定着」させることは、試験で求められるだけのよい成績を取るためには必ず必要です。

(6)社会で活動するためには、仕事や社会活動に必要な知識をよく「理解」した上で正確に身につけておく必要があります。

例えば、自動車を運転するときには、自動車の運転免許証を取るための試験に合格することがもちろん必要です。試験に合格した後も、1つ1つの道路標識が何を意味するかを「うんなるほど」とよく「理解」して正確に身につけてから運転しないと、道路交通法違反で罰せられることもあるし、事故を起こすことにもなります。進入禁止の道路標識を一度は「うんなるほど」と「理解」はしていても、その標識の意味を忘れてしまい進入禁止の道路標識のある道路に進入すれば、向こうから来る自動車と正面衝突をして死亡事故を起こすことすら考えられます。

(7)現代は「知識が基盤となった社会」つまり「知識基盤社会」ですので、社会に必要な高度な「知識や情報、技術」の1つ1つの意味を「うんなるほど」とよく「理解」し「正確に身につける」「定着」した上で、それらをうまく組み合わせながら用いる能力が求められます。社会に出て生涯にわたって活動するときこそ一度「うんなるほど」と「理解」したことを「正確に身につける」「定着」させることが大切と、私は強く皆さんに訴えたく思います。

Q：では、どのようにしたら一度「うんなるほど」と「理解」したことを「正確に身につける」「定着」させることができますか。できるだけ詳しく、また、わかりやすく説明して下さい。

A：(1)私は、「定着」には3つの段階があると考えます。

- (2)「定着」の1つめは、一度「うんなるほど」と「理解」したことを、「スラスラ口について正確に言えるようにすること」です。
- (3)「     とは何ですか」と聞かれたら「     とは     ということです」と「スラスラ口について正確に言えるようにすること」が、「定着」の第1ステップです。
- (4)英語の文章をその日に10回勉強したら、その意味を「うんなるほど」とよく「理解」した上で、その文章を「何も見ないでスラスラ正確に言えるようにすること」。これが「定着」の第1ステップです。
- (5)「日本国憲法の三大原理」とは「国民主権と平和主義、基本的人権の尊重である」ということを社会の授業で勉強し、「日本国憲法」「三大原理」「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」の1つ1つのことばの意味やその内容を「うんなるほど」とよく「理解」したら、次に「日本国憲法の三大原理とは国民主権、平和主義、基本的人権の尊重である」と「何も見ないでスラスラ口について正確に言えるまでにすること」が、「定着」の第1ステップです。
- (6)すべての科目について、このように一度「うんなるほど」とよく「理解」したことが「スラスラ口について正確に言えるようにすること」が、「定着」の第1ステップと考えて下さいね。

Q：一度「うんなるほど」とよく「理解」したことを「何も見ないでスラスラ口について正確に言えるようにする」にはどうしたらよいのですか。

A：(1)学校や開倫塾の教科書やテキスト、授業中に取ったノートやメモ、語句ノートを、ジーンと何回も何十回も見つめてすべて覚えてしまうことも非常に役に立ちます。是非折に触れて、今まで授業や自学自習で勉強したところまでの教科書やノート、参考書や様々な教材をジーンと何回も何十回も、もっと言えば何百回も最初のページから読み直してみてください。必ず、「何も見ないでスラスラ口について言える」ようになります。

- (2)ただ、もっとよい方法もあります。それは声を出して読むことです。一度「うんなるほど」と「理解」したことが書いてある教科書やノート、参考書などを、大きな声を出して何回も何十回も何百回も繰り返し繰り返し読む練習をすることです。「絶対にスミからスミまで口について正確に言えるようにするぞ」と決意して、声を出して読む「音読練習」を繰り返すことです。「スミからスミまで口について正確に言えるまでにすること」と決意し、願いを込めて「音読練習」を繰り返すことです。何回も何回も音読すれば、必ず正確に言えるまでになりますよ。この「音読練習」を繰り返し、一度「理解」したことが「スラスラ口について正確に言えるようにすること」が、「定着」の第1ステップです。

Q：「定着」の第2ステップは何ですか。

A：(1)一度「うんなるほど」と「理解」したことが、「音読練習」などをして「何も見ないでスラスラ口について正確に言える」ようになったら、「何も見ないで楷書(かいしょ)で正確に書けるまでにすること」。これが「定着」の第2ステップです。

- (2)「何も見ないでスラスラ正確に言えること」も素晴らしいですが、それらがすべて正確に楷書で書けるようになればもっと素晴らしい。文字という手段で、自分が身につけた知識を書き表すことができるからです。他人にも、文字でものごとを正確に伝えられるようになるからです。
- (3)学校のテストや入学試験、資格試験や採用試験には筆記試験が課され、今までに学んだことが正確に書けるかどうかという出題が多いことは厳然たる事実です。自分の人生における選択

肢を広げるために、一度「うなるほど」と「理解」したことを「正確に楷書で書けるようにすること」は大切なことです。

(4) 学校以外の生活や仕事、活動の場でも「正確に楷書で書けること」は欠かせませんね。

(5) どのようにしたらよいかといえば、「書き取り練習」が一番効果的です。

(6) 一度「うなるほど」と「理解」し、それを「音読練習」で「何も見ないでスラスラ口をついて正確に言えるようにする」。これができたら、まずは何も見ないでその内容をすべて書いてみましょう。すべて正確に書けたら OK ですが、よく書けない語句があったらこの語句だけでもいいですから「書き取り練習」を繰り返す。正確に書けるようになったら「何も見ないでスラスラ口をついて言えるまでになった」内容をもう一度書いてみることをお勧めします。

(7) 楷書(かいしょ)とは、漢字の書体の一つで点画(漢字の点と画)をくずさない書き方です。教科書で用いられている書き方なので一度は身につけて下さいね。点や画を略した草書(そうしょ)や、楷書と草書の間に行書(ぎょうしょ)という書体もありますが、まずは点画をくずさない楷書を学校や開倫塾の教科書・テキストを用いて身につけて下さいね。

(8) 英語は、ブロック体と筆記体をペンマンシップや学校の教科書や開倫塾のテキストを用いて正確に身につけた上で、語句の読み方とスペリング(綴字、つづりじ)を確実に身につけて下さいね。

語句の読み方は、教科書の CD や辞書に出ている発音記号を用いて、何回も何回も「音読練習」をして身につけて下さいね。

(9) 日本人が世界の人々から高く評価されることの 1 つは、英語の文字や数字を非常に美しく書くことができるということです。

日本では習字が非常にさかんで、小学生のうちから文字を美しく書く訓練をしているせいか、アルファベットや数字も非常に美しく書くことができる日本人が多く、余りに美しい文字を書くので世界の人々から高く評価されます。美しい文字を書くことのできる人は、高い知性、高い教養の持ち主であると考えの人が外国では多いからです。(あんなに美しい文字で書けるのに、話せる英語は簡単なあいさつや単語だけだとびっくりされないようにがんばりましょうね)

(10) ブロック体しか書けない人は、サインを真似(まね)されやすいので、外国で詐欺(さぎ)事件に巻き込まれやすい、犯罪の被害者になりやすいとされています。ブロック体だけではなく筆記体も必ず練習して、せめて自分の名前だけでもいつも同一の筆記体の書体でスラスラ書けるまで何百回も「書き取り練習」を繰り返しましょうね。

外国の人が筆記体で書いた文字や文章を読まなければならないことも、外国の人とコミュニケーションを取るときや外国に出掛けたときには必要となることもあります。筆記体を読み取るには筆記体が自由に書けることが役に立ちます。筆記体が書けることは、筆記体が読めることにつながることも多いので、筆記体の練習は学校を出てからも続けて下さいね。

(11) ちょっと脱線するかもしれませんが、英語について言えば「読んでわからないことは、聞いてもわからない」とよく言われます。英語のリスニングがどうしても難しいのは、英語の文章を読むことが難しい人の場合が多いと思われます。リスニングの能力を上げたければ、英語の文章をたくさん読み、読んでわかる能力、読解力を身につけることが大切だと私は考えます。もちろん CD を聞いたりリスニングの練習をすることも大切ですが、「読んでわからないことは、聞いてもわからない」ということも真実と思われるので、多くの英語の文章を読むことも大切と思い、真剣に行っていただきたいと私は希望します。

また、筆記体も同じで、「筆記体を書けなければ、筆記体はよく読めないことも多い」と思

います。

Q：人や土地の名前も書けるようにした方がよいのですか。

A：(1)ある教科を勉強するときには書けるまで「書き取り練習」をして知識を身につける、「定着」させた方がよいのは、「教科書に書いてあることすべて」です。

(2)「ノート」を用いて勉強するときには書けるまで「書き取り練習」をすべきなのは、「ノートに書いてあることすべて」です。

(3)ですから、当然、事物を表す語である「名詞」は、人や土地の名前などの「固有名詞」を含めて教科書に載っているものはすべて書けるまでにして下さいね。

(4)社会の地理で地名が出てきたら、必ず地図帳でその地名の場所はどこかを確認してから正確な書き方を「書き取り練習」しましょう。代表的な外国の地名は、英語での表記法も「書き取り練習」を繰り返し身につけておくとよいでしょう。

(5)歴史で歴史上の地名や年号が出てきたら、副教材の地図帳や歴史年表、教科書や参考書の地図や年表を用いて必ずその場所や年号を確認した上で、地名を正確に書けるまで、また、年号とそのときの出来事(できごと)を正確に書けるまで「書き取り練習」をすること。

(6)社会の公民や政治経済で教科書に憲法やその他の法律の条文が出てきたら、必ず教科書の最後に付録・資料として載っている条文を確かめ、ゆっくり声を出して読む「音読練習」をしてから、「書き取り練習」をして正確に書けるまでにすること。教科書に出てくる法律の条文はその法律の中でも最も大切なものが多いので、よくその意味を「理解」してから「音読練習」をして「正解に何も見ずにスラスラ言えるようにすること」、スラスラ言えるようになったら、「書き取り練習」をして「何も見ないで楷書で正確に書けるまでにすること」が学校のテストや入試試験でも役に立ちますし、また、社会に出てから生活や仕事、社会的な活動をするときには、学校時代の何十倍も役に立ちます。「法律の無知は許されず」。社会のルールとして法律があるのに、それを知らないで社会で活動するのは、ルールを無視してサッカーや様々なスポーツをするとペナルティが課せられるのと同じで、人間や企業などの行動として許されない、つまり刑罰を科されたり損害賠償を請求される原因となります。また、自分の権利が侵害されても、自分が権利を持っていることすら知らなければ大きな損害を被ることもなります。いろいろな意味で、法律を知りその意味を「理解」し、その内容をスラスラ言えるまで・正確に書けるまで「定着」させることは、自分のためにも社会のためにもなります。

(7)理科の第1分野・第2分野の教科書に出てくる内容も、すべて「うんなるほど」と「理解」した上で「音読練習」を繰り返し、「何も見ないでスラスラ口をついて正確に言えるまでにすること」、スラスラ正確に言えるようになったら、「書き取り練習」を繰り返して「正確に書けるまでにすること」です。

物理の「の原理」「の法則」などの内容も「スラスラ言えること」、「正確に書けること」が大事。化学の化学記号(つまり化学物質を示す記号、元素記号なども)や化学式もその意味をよく「理解」した上で、スラスラ言えたり、正確に書けるようにすること。生物の教科書に出てくる1つ1つの内容をよく「理解」し、「正確に言えるように」「正確に書けるように」することです。

Q：えっ、細胞や植物、動物、人体図までも正確に書けるまでにするのですか。

A：(1)教科書の上に、教科書の図が透かして見える半透明の紙(トレーズ紙)を置き、その上から図

をなすって書き写すと覚えられます。

- (2)教科書の図をトレース紙を用いてゆっくりなすって書き写し何も見ないで正確に書けるようにすることは、よい成績が取れるだけでなく、とても面白いです。この書き写しをすることで理科が大好きになる人も多いです。
- (3)教科書に出ている鉱物の図を書き写すことにも是非挑戦して下さいね。
- (4)社会の教科書や地図帳を用いて地形を書き写すこと、書き写すことで何も見ないで地形がスラスラ書けるようになることは、地理や社会を得意科目にし、大好きにするととてもよい勉強方法です。

Q：書き写し(筆写)はよい勉強になるのですね。

A：そうですね。少し脱線しますが、私は正岡子規(まさおかしき)が好きなので、12月17日に本屋さんに行き、岩波書店から刊行されたばかりの坪内稔典著「正岡子規 - 言葉と生きる - 」(岩波新書)を読んでいましたら、子規と同年に生まれ、後に大学予備門(今の東京大学)で同級生となる南方熊楠(みなかたくまぐす)と子規の少年時代のことが書いてありました。

- (1)「小学生の熊楠(くまぐす)は友人の家に遊びにゆき、そこにある江戸時代の百科辞典『和漢三才図会』を読んだ。暗記して家に帰り、半紙を綴じた帳に書きつけた。図も暗記して書いた。熊楠(くまぐす)は3年かけて105冊のその百科辞典を写してしまった。それだけでなく、中国の植物学の事典『本草綱目』52巻(21冊)も写した。古本屋から借りた『太平記』50冊も写したし、『諸国名所図絵』『節用集』なども写した。熊楠(くまぐす)自身の言葉で言えば、「書籍を求めて、8~9歳のころより20町、30町も走りありき借覧し、ことごとく記憶し帰り、反古紙に写し出し、くりかえし読みたり(「履歴書」大正14年)ということになる。(※1町は約109メートル)
- (2)少年時代のこの恐るべき筆写が熊楠(くまぐす)の知の基礎になった。筆写が基礎的な力として働き、百科学的な学者、熊楠(くまぐす)を育てた。
- (3)熊楠(くまぐす)ほどではないが、少年時代の子規もまた筆写した。
- (4)「紙をよくつかふ、と言って母からさいさいぶつぶつ言われていました。大方写し物や書き物に、人一倍半紙をつかったものと見えます」

正岡律(まさおかりつ)著「家庭より観たる子規」昭和8年

- (5)(正岡子規の)妹(正岡律)の回想は、筆写に熱中した子規の姿を髣髴(ほうふつ)とさせるではないか。

近所に住み子規と一緒に小学校や漢学塾に通った三並良は、貸し本を読んだ13歳ごろのことを次のように回想している。

- (6)貸賃は5冊 - 昼夜が5厘(りん)で、1日の中なら何度とり代え、何冊になっても、矢張り5厘だった。我々の読んだのは、多く軍談(ぐんだん)のものであるが、馬琴(ばきん)のものも大方此の頃(このころ)読んだ。

水滸伝(すいこでん)や八犬伝(はっけんでん)の中に名文があると、子規はよく写し取って居(い)た。彼は一休和尚の伝記を幾冊も貸し本で読んで、非常に面白がって、その幾冊かを写して合本にして居るのを、私は見たことがある。彼は字が達者(たっしゃ)で写本などは苦と思わず、寧(むし)ろ楽しみにして居たのだ。 「子規の正年時代」昭和3年

- (7)松山市の子規記念博物館に「香雲筆写」という写本が展示されている。香雲は中学時代の子規の雅号(がごう)だが、小学生から中学生にかけての子規はせっせと筆写した。いや生涯にわ

たってその筆写を続けたと言ってよい。

(8)子規の筆写の最たるものは、明治 24 年(25 歳の時)ごろから始めた「俳句分類」であろう。のちに『分類俳句全集』(昭和 3 ~ 4 年)全 12 巻として出版されるが、古今の俳句を四季、事物、表現の形式、句調などによって分類したこの大がかりな筆写は、子規の俳句観の基礎を形成した。俳句史、俳句の表現上の特色などをこの分類を伴う筆写によって子規は身につけた。

(9)虫鳴くや俳句分類進む夜半 (明治 30 年)

吉原の太鼓聞こえて更くる夜に、ひとり俳句を分類すわれは (明治 31 年)

(10)この当時の子規は余命 10 年を自覚していた。筆写はいわば彼の命をその底で支えていたのかも知れない。

以上(1)~(10)、坪内稔典著「正岡子規 - 言葉と生きる - 」

岩波新書、岩波書店 2010 年 12 月 17 日刊 P10 ~ 14 より引用

俳人の正岡子規(まさおかしき)や、\*後に博物学、生物学、民族学などと取り組み壮大な宇宙観を開示した南方熊楠(みなかたたくまぐす)は書き写し、筆写によって学力を身につけ、自分の世界を切り開いたと言えますね。

\*坪内稔典著前掲書 P7 より引用

Q:「定着」の第 3 ステップは何ですか。

A:学校や開倫塾の授業や、自学自習で自分で勉強をして、なぜそのような「答え」や「解答」になるのかが「うんなるほど」と「よくわかった」「腑(ふ)に落ちた」「計算」や「問題」について、「計算」や「問題」を見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で正しい「答え」や「解答」が出てくるまでにすること。これが「定着」の第 3 ステップです。

Q:その「手順」を詳しく説明して下さい。

A:(1)学校の授業で勉強した「計算」や「問題」は、授業が終了したら必ずもう一度「答え」や「解答」を見ないでやり直して下さい。

(2)もう一度やり直してみて、なぜそのような「答え」や「解答」になるのかが「うんなるほど」と「よくわかった」「腑(ふ)に落ちた」ら、「理解」できたと言えますね。

(3)「理解」できなかった「計算」や「問題」は、教科書や授業中のノート、参考書などをもう一度じっくり勉強し直し、「理解」できるまでにすることが大切です。

(4)自分の力ではどうしても「理解」できない場合は、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問して下さいね。勉強に遠慮は不要です。「よくわからない」つまり「理解」していないまま先に進むことは避けましょう。

(5)このようにして、なぜそのような「答え」や「解答」になるのかがよくわからなかった、よく「理解」できなかった「計算」や「問題」がよく「理解」できるようになったら、もう一度自分の力でその「計算」や「問題」をやり直してみましよう。それでもわからなかったら、もう一度「理解」のための努力をし直すこと。あきらめないで、何回でも挑戦して下さいね。

(6)なぜそのような「答え」や「解答」になったのかが「うんなるほど」とよく「理解」できたら、次にどうするのか。「計算」や「問題」を見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で正しい「答え」や「解答」が出てくるまで何回も、何十回も練習を繰り返すことです。これを「計算・問題練習」と呼びます。

(7)大切なことは、学校や開倫塾の教科書、テキスト、問題集には絶対に「答え」や「解答」を書き込まないことです。「計算」や「問題」の「答え」や「解答」はすべてノートに書き込むことです。

(8)間違えた「計算」や「問題」の前に自分で印をつけておくことは、賢い方法です。

Q：なぜ「計算」の「答え」や「問題」の「解答」が、「計算」や「問題」を見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射で出てくるようにすることが大切なのですか。

A：(1)学校の定期テストや入学試験はじめ、世の中のありとあらゆるテストや試験には、ゆっくり時間をかければ解けるが、パツ、パツ、パツと短い時間では解くことが難しい問題が必ず出題されます。どのような試験でも試験の時間は決められていますので、よい点数を取るためには、自分で「うんなるほど」と「よくわかっている」、よく「理解」している「計算」や「問題」は見た瞬間にパツ、パツ、パツと「答え」や「解答」が出た方が時間に余裕が生まれ、時間をかければ解ける「計算」や「問題」をじっくり考える時間を確保することができるからです。時間のかかる難しい「計算」や考えさせられる「問題」を解く時間を作り出すためには、見た瞬間にパツ、パツ、パツと条件反射でできるものが多ければ多いほどよいのです。

(2)また、社会での生活や仕事、社会的な活動をするときにも、よく「理解」している「計算」や「問題」がどんどんできる方が便利です。いちいち、これはなぜこのような「答え」や「解答」になるのか、また、どのようにこの「計算」や「問題」を解いたらよいのかを考えていては不便この上ない。ものごとが先に進まないこともたくさんあります。

(3)数学や理科の「計算」や「問題」だけでなく、英語や国語、社会の「計算」や「問題」についても、また、「音楽」「美術」「技術・家庭」「保健体育」の「計算」や「問題」についても、この「計算・問題練習」を繰り返して下さいね。

### 3. おわりに

Q：3つの「定着」のためには「練習」が大切なのですね。

A：(1)「学習の3段階理論」では、「音読練習」と「書き取り練習」、そして「計算・問題練習」の3つの「練習」を「定着のための3大練習」と呼んでいます。

(2)「練習は不可能を可能にする」という慶應義塾大学の塾長を務められた小泉信三先生のことがあります。「定着のための3大練習」は「不可能を可能にする」大きな力を皆様に与えてくれます。

(3)「定着のための3大練習」は学校の定期試験で100点満点が取れ、学校でよい成績を皆さんに取らせます。自分の行きたい学校、つまり自分にとっての「一流校」への合格を導きます。様々な資格試験、国家試験や採用試験に皆様を合格させます。皆様の人生における選択肢を広げるのが、一度「うんなるほど」とよく「理解」したことの「定着のための3大練習」です。

(4)社会に出ても役立ちます。

(5)あきらめたらおしまい。自分の未来は自分の力で切り開く。このための最も有効な手段・方法の一つが、今回お話した「定着のための3大練習」です。

2011年1月1日記